

青海島の

魅力・見どころを 満載の写真で 紹介！

素晴らしい青海島の地質遺産（ジオサイト）を巡る
ジオツーリズム（大地・地質の旅）を
存分に楽しむことができる。

北長門海岸国定公園「青海島」のジオツーリズム ジオサイト12の提案

北長門海岸国定公園「青海島」の
ジオツーリズム

ジオサイト12の提案



作者：今岡 照喜

取材協力：伊藤 信行
撮影協力：永山 伸一

第9話「観音洞」付近の地層はカルデラ湖に堆積

第9話 「観音洞」付近の地層はカルデラ湖に堆積

カルデラ内の堆積物

一般にカルデラ内にある岩石のほとんどは、火山の噴火で空中に放り出された噴出物、すなわち火砕物（火山岩塊、火山礫、軽石、火山灰など）が地表に降下し堆積した後に、噴出物のもつ熱と重量によって、一部が溶けながら固結してできた「溶結凝灰岩」と呼ばれる岩石である（第13話参照）。日本ではあまり使われていないが、外国ではおもに軽石からなる溶結した岩石を「イグニンプライト」と呼んでいる。いずれにしても、これらの岩石がカルデラ内の堆積物の大部分を占めている。

ところが、カルデラ内にある平家台～観音洞～大平崎にかけては、「溶結凝灰岩」ではない種類の岩石が広く分布している（第1話の図1参照、写真9-1）。本話では、それについて紹介することにしよう。



写真9-1 美しい砂浜と御成崎を望む観音洞（撮影：伊藤信行）。

陸路で平家台にアクセスすると、その途中の尾根からこの素晴らしい景色に出会うことができる。大型のデンジャラスの遊覧船の正面窓には観音洞が見えている。観音洞には中型のイルカの船で入ることができる。湖成層はやや岩割（割）に傾斜しているのがよくわかる。

- 82 -

第17話「沈水島」：荒々しい外海 vs. 穏やかな内湾

第17話 「沈水島」：荒々しい外海 vs. 穏やかな内湾

「船越」上空から東を眺めると

青海島の中部、「船越」の上空から東を眺めてみよう（写真17-1）。日本海に面した北岸はゴブツとした岩場が出っ張り、海岸には砂浜が見られる。岩場や岩礁は打ち寄せた波は荒々しく白波を立てている。この荒々しい白波が海岸の侵食と堆積を招き、岩肌を露出させる。そのため北岸の水際では植物が育ちにくい環境になっている。一方、内湾を縁どる南岸では岩場や岩肌の露出も少なく地形がなだらかなのである。水面には全く波が見られず鏡のようである。穏やかな内湾ではゆっくりと堆積物が進行するため、植物は水際へ迫っている。仙崎湾を取り囲む地帯には同じような光景が広がっている。このような対照的な海岸地形は「沈水島」の特徴として知られている⁷⁹⁾。

海岸地形が異なるために、生育する植物（「植物相」）にも違いが認められる。青海島の植生図をみると、荒々しい外海に面した西岸から北岸、そして東岸にかけてはクロマツ・トベラ群集（第12話の写真12-3参照）が、穏やかな内湾の広がる南岸ではおもにアカマツ・コバノミツバツツジ群集が生息している⁷⁹⁾（図17参照）。



写真17-1 青海島の中部、「船越」上空から東を眺めた「外海」と「内湾」のコントラスト（撮影：永山伸一）

白波の立つ荒々しい「外海」（写真左側）と穏やかな「内湾」（写真右側）とが対照的な「沈水島」の特徴をよく示している。奥島崎（中央中央右側の湾内に突き出た四角い構造体）のある「葉津湾」の奥側に横たわる半島は「沈水島の島」（写真右側）と呼ばれている。そこでは、あまり侵食が進んでいないために高層のような平坦な地形が保存する「幼年期」の地形が見られる。

- 123 -

作 者：今岡 照喜

取材協力：伊藤 信行

撮影協力：永山 伸一

■ 定価 2,530円
(本体 2,300円+税)

単行本
(A4オールカラー、
ソフトカバー、175頁、
2023/10/17)

販売先

青海島観光汽船株式会社

〒759-4106

山口県長門市仙崎字漁港南4297-2

TEL: 0837-26-0834 FAX: 0837-26-0835

Mail: info@omijimakankoukisen.jp

omijimakankoukisen@gmail.com

長門市総合文化財センター

(ヒストリアなごと)

〒759-4101 山口県長門市東深川2660番地4

TEL: 0837-22-3703 / 0837-23-1264

FAX: 0837-22-3700

Mail: nagabun2022@gmail.com

山口大学生協FAVO books

〒753-0841

山口県山口市吉田1677-1

TEL: 083-933-0613 (大学内線: 6150)

FAX: 083-933-0612

Mail: favobooks@yucoop.jp